

国道2号等 神戸三宮駅前空間整備事業計画検討会
(第3回) 議事概要

1. 日 時 2020年3月3日(火) 書面会議

2. 委員

[座 長] 小谷 通泰 (神戸大学 名誉教授)
[委 員] 正司 健一 (神戸大学大学院 経営学研究科 教授)
 羽藤 英二 (東京大学大学院 工学系研究科 教授)
 井料 隆雅 (神戸大学大学院 工学研究科 教授)
 松島 格也 (京都大学大学院 工学研究科 准教授)

(敬称略)

近畿地方整備局、兵庫県、神戸市、雲井通5丁目再開発(株)、兵庫県バス協会、
兵庫県警、事務局(兵庫国道事務所・道路計画第二課・神戸市)

3. 議 事

(1) 国道2号等 神戸三宮駅前空間の事業計画(案)【概要版】

(2) 国道2号等 神戸三宮駅前空間の事業計画(案)

<委員からの主な意見>

- ・当事業計画は、国、神戸市、バス事業者、再開発事業者をはじめとする様々な主体が連携して、市街地再開発事業と一体として整備される初めてのバスターミナルであることから、全国展開を図っていくうえで今回の事業計画の策定過程で得られた知見は貴重であり、バスターミナルの整備事業が制度化されようとする中で、活かすべき知恵はないか検討が必要である。
- ・再開発事業の中でバスターミナルを整備することは空間的、あるいは事業収支の面で制約となる側面もあるため、優先順位を適確に考えつつ、一方で、ビル内の様々な機能施設との連携による相乗効果を活かすための方策を検討することが必要である。
- ・都心の限られたスペースをうまく活用するうえで、効率的な新たなバスターミナルの規模、乗降場の配置・運用や、今後のバスターミナル詳細設計における慎重な検討が重要となる。
- ・新バスターミナルの待合空間への導入機能・規模を具体的化するにあたっては、利用者にとって便利で魅力的な待合空間にふさわしい施設となるよう検討していただきたい。
- ・バスターミナルの機能を十分に発揮させるため、Ⅱ期の整備をスピーディに進めることが必要である。

- ・ 5つの施設の整備を円滑に推進するためには、現状の制約に捉われることなく、より良いものをつくるとの発想のもとで、各関係者が一緒になって協力し、各施策を着実に推進するとともに、事業計画全体の進捗を管理する仕組みづくりが必要である。
- ・ 三宮クロススクエアと国道2号道路空間は空間としての連続性、一体性を保つことが望ましい。
- ・ 国道2号の道路空間整備については、今後、新たなモビリティの実用化も想定されるため、将来の整備形態については柔軟に可能性を検討することが大事である。
- ・ バスターミナル完成後の施設の維持管理では、民間・地方公共団体・国が一致協力して知恵を絞りながら、運営の効率性だけでなく神戸の地域特性が感じられる、ユニークでフレキシブルな運営が期待される。
- ・ 中長距離バスのみならず路線バスについても、利用者にとって使いやすく、わかりやすいものとなるとともに、誰にとっても安全で快適かつスムーズな歩行者空間が広がることで、えき=まち空間の将来構想の実現に向けた、着実な第一歩に繋がっていくことを強く願っている。
- ・ 回遊性向上のためには移動手段の検討のみではなく、施設そのものの魅力を高める努力が不可欠である。「人の交流拠点」というコンセプトを実現するために、バスターミナルを含む再開発ビル全体としての取組が必要である。
- ・ 道路法の一部改正について、道路としての位置づけからターミナル内の交通規制（一方通行等）の必要性について整理が必要である。
- ・ バスターミナルを管理・運営する民間事業者には、神戸の顔としての自動走行やバスターミナルなどのネットワークを作るという公共性の観点も必要である。
- ・ バスターミナルの管理・運営では、バスターミナル以外の空間も含めて考えることができればよい。
- ・ 神戸三宮駅前空間のエリアマネジメントでは、移動空間といった視点からの検討も重要である。

以 上